
help2

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

help2

【Nコード】

N5906N

【作者名】

新品の靴

【あらすじ】

「助けてほしい。」

僕は今度はゆっくりと噛み締めるように言った。

「助けてほしい。」

僕は今度はゆっくりと噛み締めるように言った。

「どうしたの？どこか苦しいの？」

「うん・・・なんというか、君の想像する肉体的な苦しみがなくて、もっと精神的な苦しみで・・・」

「じゃあ誰と話していたの？」

「自分自身にだよ。」

この目の前の人には嘘は見抜かれる。

直感が僕にそう告げてきた。

「君は変に思うかもしれないし、実際僕は変なんだよ。ある日突然僕が現れるようになった。」

「二重人格ってこと？」

「いわゆるね。」

「どうしてそんなに追い込まれてるの？」

「・・・追い込まれてるか。確かにそうだね・・・。僕は自分自身が嫌いだ。本当に嫌いだ。けどそれに比例するように自己愛に溺れていくんだ。嫌いだとか言っておきながら、心の奥深くでは自分が一番大好きなんだ。その相反する二つの感情に追い込まれててね。」

「それで、私の、助けが欲しいの？」

「いや、ただ言ってみただけなんだ。君に助けを乞えば何かが変わる気がしてね。そもそも、君はどうしてここにいるの？どうやって入ってきたの？鍵も閉めてたのに。」

「あなたはどやってここに入った？」

「合鍵を作って・・・、まさか。君も？」

「そう、ここに来てるのはあなただけじゃない。ただ時間が違ってただけ。私もずっとここに通ってたの。」

「・・・どうして。」

その少女はころころと笑った。

「どうしてって？それは、」

それは、私も私と対峙してたからよ。

「君も、二重人格なの・・・？」

信じられない。僕の他にいたなんて。

「なにもあなただけじゃないわ」

彼女は鋭く言い放つ。

「みんな、持つてるのよ。」

「まさか」

「あなたは自分を何だと思っているの？たかが1高校の中の1生徒。あなたが二重人格だつてことで確率的に最低でもどの高校にも1人は二重人格者がいることになる。そのぐらいあなたは普遍的な存在つてことよ。なのにあなたは自分一人が悲劇の主人公だと思いついで屋上までやってきた。本当はみんなも少なからず似たような感情を抱いてるっていうのにな。なんだかんだ自分しか見てないじゃない。」

「そんなことわかってる。どうして君も僕みたいに僕を責めるんだ・・・。僕・・・もう・・・」

乾いた地面に雫が落ちる。

生温かい風と雨に叩きつけられながら、僕たちは空を見据えて言った。

「よろしくね。」

（後書き）

誰でも感想を書けるようになりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5906n/>

help2

2010年10月10日02時44分発行